館報千代
第327号
発行
千代公民館
編集
広報委員会
印刷
龍共印刷株式会社

＜千代の人口＞
令和5年2月末日現在
男　704名（－7）
女　786名（－2）
合計　1,490名（－9）

千代地区文化展

一月九日～十五日、千代公民館で「千代地区文化展」が開かれた。十一月に予定していた文化祭が、新型コロナウイルス感染症の拡大により中止を余儀なくされたが、文化祭で予定していた展示品を鑑賞してもらう機会として、文化委員会が主催し初めて開催した。展示は七団体・五個人から出品され、絵画、写真、立体作品等のほか、団体の活動紹介や大会結果、書籍の展示に至るまで、幅広いジャンルが千代公民館に集まった。

観覧に訪れた方からは、「夜でも見られたので、子どもと一緒に見に来て、一時間以上見て回った」という親子や「用事があって自治振興センターに来たら、展示に目が行ったので見ていった」など、初めての試みであったが多くの反響が寄せられた。玄関ロビーに飾られた感想の木も、一週間足らずで華やかに彩られた。

令和四年度 一年を振り返って

まちづくり委員会 会長 関口 俊博

コロナの発生から今年度でまる三年が経過しました。やっとここに来てコロナ収束の先が見えてきたのではないかと思われます。今年度も一年間、前年同様にコロナ禍対応でのまちづくり委員会活動であったかと思いますが、その中でもよこね田んぼの保全活動は屋外ということもあり地域の方々、関係者の皆さんのご理解ご協力もあり年度初めからコロナ禍以前の内容での活動が出来ました。

昨年五月三十一日、千代診療所が市保健課を中心にご尽力頂き再開することが出来ました。休診中の五カ月間につきましては地域の皆様には大変ご心配とご不便をお掛け致しました。改めてお詫び申し上げます。先生を中心にスタッフも充実しています、安心して多くの皆さんに是非ご利用して頂きたいと思います。

飯田市最終処分場の今後十二年間の期間延長について、令和元年の十月に飯田市より申し入れがあり、毛呂窪区、千代地区まちづくり委員会、飯田市の三者で延長に関する協議をして参りました。その間約三年五ケ月という長期に渡る協議となりました、特に地元毛呂窪区の皆様には延長の必要性をご理解頂き、断腸の思いで決定されたことに改めて感謝申し上げます。二月二十一日、関係者により無事調印締結することが出来ました。協定書の冒頭文にも有りますようにこの協定を踏まえて、第四次千代地区基本構想に揚げる将来像の実現に向けた取り組みをより一層進めて行けるものと思います。地域の皆様を始め、行政機関の皆様のご協力により重要な仕事が出来たと思います。

最後に、二期四年間執行部の皆様始め地域の皆様のご協力で無事務めることが出来ました。ご協力ありがとうございました。

まちづくり委員会 副会長 長沼 博明

本年度は、三年前から続く新型コロナウイルスの影響により、大人数の参加者による会議等が、ことごとく制限される年となりました。このため、年度当初に行われる通常総会も異例の書面決裁によるものとなり、他の多くのイベントも中止することになったことは、とても残念であったと思っています。

その中で、二月の広報飯田の市長室からの佐藤市長のコラムの中に「田舎暮らしの本」（宝島社）の「住みたい田舎ランキング」特集で、飯田市が五万人以上十万人未満のまち部門で総合一位に選ばれたこと。また、松尾在住で日本福祉大学講師の宮國康弘氏より健康とくらしの調査結果についての講演があり、私達の暮らしている千代は、二十地区の中の総合評価で、幸福感・連帯感・助け合い等が評価され一番の地区とのことでした。

私も、多くの人に支えられ一年間無事に終えることができましたこと、感謝申し上げます。

千代公民館 館長 木下 貴文

地域の皆様には、公民館活動にご理解ご協力を頂き感謝申し上げます。

今年度の初めは、コロナ感染者数の減少に伴う公民館活動の再開に期待しました。ところが現実は、夏場は八月下旬にピークを迎え、冬場は十一月下旬にピークとなり、その前後の期間は高いレベルが続きました。

この状況の中で、各委員会が実施できたのは以下の事業です。体育委員会は健康福祉委員会と共催した「ふるさと講演会」、文化委員会は「二十歳の集い」、青少年育成委員会は「栃の木ツアー」、広報委員会は計画通り六回の「館報千代」の発行です。

この他の活動では、毛呂窪の天文台に飯田美術博物館の方を招き、小学生を対象とした星空観察会を二回開催しました。来年度以降は募集対象の幅を広げ、いろいろな方の交流の場になればと考えています。

また、中止となった文化祭に出展を応募して頂いた皆さんの作品を、一月九日から一週間公民館に展示し地域の皆さんに観ていただくことができました。

更に工夫をして公民館活動を行っていきたいと思いますので、引き続きご協力をお願いします。

総務企画部 部長 島岡 浩士

本年度最初の挨拶で、千代にも変化の波が押し寄せていると申しました。

新型感染症、高齢化、少子化、人口減少、過疎化に大きな影響を受けています。

この変化に少しでも対応する為、負担の軽減を検討してまいりました。

重点目標の、「関わろう千代、やろうぜ千代」の精神で、まずは出来る事をやると想いで進める事が出来ました。

これには、都度、参加して頂いた、会長を初め、所長や諸先輩方に大変お骨折りを頂き、まとめる事が出来ました。

自分は、僅かな事しか出来ませんでしたが、皆様のお力添えに大変感謝してお礼を申し上げます。

基盤整備部 部長 篠田 徳雄

区民の皆さんこんにちは、今年度の基盤整備部の活動を振り返り一言御挨拶申し上げます。

今年度もコロナ禍での活動ではありましたが当地区の現状を考えますと、コロナを理由に活動を停滞させられないと思い一年間取組んできました。

幸いに部員の方々のご協力を頂き年度当初の計画以上の活動が出来たと思っていますが、この地区の高齢化・過疎化等の問題を考えますと、まだまだ不十分だったと反省しております。又千代診療所の再開など当地区に明るいニュースも有りました。沢山の方々の努力により区民の思いがかないました。

これからもより良い千代の未来のためにまちづくり委員会と区民の皆さんで頑張りましょう。

イナズマ

「世界中の人に持続可能な未来を」二〇一五年九月、国際連合の総会で、未来を持続可能な世界にするために、世界のすべての人が取り組むべき目標が定められた。「SDGs」である。「Sustainable（持続可能な）Development Goals（開発目標）」には、十七の目標が掲げられている。

世界の人口は、一九〇〇年には十六億人ほどだったが、二〇一九年には七十七億人に、さらに二〇三〇年には八十五億人、二〇五〇年には九十七億人を超えると予想されている。そんな中、貧困や飢餓に苦しみ、五歳の誕生日を迎える前に命を失う子どもは毎年五〇〇万人を超え、学校に通えず読み書きができない子どもが五七〇〇万人いるという。女性というだけで教育を受けられない国もある。

また、海に流出したプラスチックごみは、毎年八〇〇万トン。海には既に二億トン近いプラごみが浮遊しており、二〇五〇年には海中のプラごみの量が魚の量を上回ってしまうのだ。因みに、日本はプラ容器廃棄量が世界で二位である。

これらの問題について、SDGsでは二〇三〇年までに目標を達成させるとしている。

あと八年。

私たちにできることは何だろうか。

産業振興部長　熊谷　祐司

産業振興部長を務めさせて頂いた熊谷です。

これは大変な役目をいただきこの先どうしようと思いドキドキしての始まりでした。千代のよこね田んぼは「棚田百選」であり、又新たに「つなぐ棚田遺産」に認定され千代の財産ということで、大勢の方の善意の協力で無事収穫する事ができました。感謝、感謝です。

ある日よこね田んぼに「和歌山県からよこねを見るだけの目的で飯田に来た。」という方がいてビックリしました。今後も保全活動をみんなでワイワイやれたらと思います。一年間本当にお世話になりました。

な自然あふれる千代地区をこれからも守っていかなくてはならないという思いを深めることができました。

これで二年間の任期を終えることとなります。皆様のご協力に、感謝いたします。

環境保全委員長　清水　智

今年度環境保全委員会では主に以下のような活動をしてきました。

①各地区のリサイクルステーションの管理

②びんとペットボトルの回収当番（二か月に一回）

③各区環境保全パトロール

④委員全員による不法投棄回収（野池丸山の滝付近）

⑤ごみゼロ運動・一斉河川清掃（各区で実施）

こうした活動を通じ、豊か

健康福祉委員長　野田まりこ

わからない、知らない事ばかりの健康福祉委員となって二年を終えようとしている今、他の委員さんの協力と、事務局のアドバイスを頂いた事には御礼を云います。ありがとうございました。この間コロナの影響もあって中止せざるを得ない事業もいくつかありました。しかしひとつひとつの事業に関わる事で健康福祉の意義ある活動がみえてきたように思います。それは、住民と地区がつながり合える、生き生きとした地域づくりの活動の大切さです。わからない、知らない事が少しみえてきたように思います。

生活安全委員長　吉澤　富夫

委員の皆様、地区の方々のご理解・ご協力のおかげで大きな事故・事件もなく任期を終える事ができました。感謝申し上げます。

今年もコロナ禍の影響で一部公民館行事が出来ず活動の制約を受けましたがほぼ活動計画は達成できました。小学校での交通安全教室の開催援助。交通安全週間での街頭指導、のぼり旗での啓発。地区内の交通の障害になる支障木除去作業の補助金支給。千代駐在所の松田さんのご協力による特殊詐欺等防止の啓発活動です。近頃は日本各地で凶悪な強盗事件や、特殊詐欺が頻発しています。地区内で不審な車等を見かけたら駐在所に連絡をお願いします。

地域振興委員長　小嶋　啓二

一年間お世話になりました。まだまだコロナの影響を受けながらの活動にはなりましたが、万古渓谷・野池親水公園・下村広場の環境整備を予定通り実行する事が出来、千代河鹿がえる祭りも三年ぶりに小規模ながら開催出来ました。しかし、野外音楽祭と文化祭は残念ながら中止となり協力出来ませんでした。この委員会を通して地域があっての我々だと言う感謝を形に表していく事が大切だと思っております。一人一人で地域貢献は難しいと思いますので、それぞれの団体の趣旨をご理解の上ご加入お願い申し上げます。

体育委員長　柏木　秀志

今年度も昨年に引き続き新型コロナウイルス感染症の影響で、計画されていた行事が中止となってしまいました。体育委員会で感染対策をたてましたが、残念な結果となりました。今年度初めて計画した東京パラリンピックで話題となったボッチャを、地区の皆様に体験してもらいたかったのですが、これも中止となってしまいました。

一年間体育委員長として地区の皆様にお目にかかることはできませんでしたが大変お世話になりました。来年度は、計画したすべての行事が出来ますことを、期待しております。

文化委員長　清水　利哲

新型コロナの影響で今年も多くの行事が中止を余儀なくされました。

千代峠交流会は、六月開催の予定を十月に延期しましたが、やはり感染拡大で警戒レベルの引き上げにより、直前の中止決定となってしまいました。

文化祭も直前まで準備を進めて来ましたが、中止となってしまいました。せめて展示だけでも出来ないかと、急遽千代公民館のスペースを使い一月に一週間にわたり、文化展として作品の展示を行うことが出来て良かったと思います。今年度から名称の変わった「二十歳の集い」も感染症対策を行い、無事できてほっとしました。

一年間、ご協力ありがとうございました。

青少年育成委員長　林　良樹

今年度も昨年同様、コロナ感染症の影響を受けほとんどの行事が中止となる一年でした。万古渓谷沢渉りツアーが唯一、行う事ができました。自然と触れ合う貴重な一日になったと思います。来年度、行事が実施出来、千栄、千代の新発見、自然の良さ、交流して楽しい思い出づくりができるようになってほしいと願います。

そしてまた参加したいと思ってもらいたいです。

コロナが一日でも早く収束し、行事が出来るよう願っています。

一年間皆様の御協力ありがとうございました。

広報委員長　島田　勝介

今年度の広報活動もコロナ禍の影響を大きく受けた一年でした。昨年度に続き多くの地区行事や各種イベントなどが中止になり、紙面の編成に苦労しました。

しかし御柱式年祭、竜東中テニス部の県大会優勝、また同校のＦＢＣの最優秀賞、盛会だったよこね田んぼ作業など、明るい話題も掲載することも出来ました。これも地域の方々や広報委員の協力の賜物と感謝します。

野池事の神送り

北澤　重信

地区の伝統行事である事の神送りが、二月八日（水）と十一日（土）に野池と芋平で行われた。

無病息災を願い各戸で笹竹に「馬」「風の神」など墨書きした短冊をつるし、野池公民館から太鼓、鉦を打ちながら田力地区の境まで運んだ。また芋平は、集会所に集まり、のぼり旗や神輿、笹竹を制作。神輿は、わらで土台を作り竹で骨組みし杉の葉をかぶせ中へ「男神」「女神」のご神体を供えた。全てが整うと、神輿の前で念仏を唱え蛇沼の境へと出発した。

帰り道は振り返ると厄神が取り付くと言い伝えられているので振り返る事なく無事行事を終える事ができた。

飯田市公民館大会

二月十九日（日）、飯田文化会館で第六〇回公民館大会が行われた。テーマを「今こそみんなで考えよう～愉しく生きがいを感じる地域をめざして～」と銘打って、これからの地域のあり方、また地域における生き方について探った。

松本大学教授の白戸洋氏による基調講演『公民館で地域がよみがえる　地域づくりと公民館』では、松本市上土町のまちづくりを具体例に、地域の課題を生涯学習集団での学習を通して解決していく手法をお聞きした。その後の分科会では「子ども」「次世代育成」「地域文化」「共生社会」「私達にとっての公民館」「ムトス学習交流会」の六つのテーマで考えを深めた。

また、併せて行われた令和四年度飯田市教育功労者表彰式では、千代地区から川手良則さん（米川）、太田孝雄さん（米峰）、澤柳嘉一さん（米峰）の三名が表彰された。

ふるさと講演会

一月二十二日（日）午前十時から千代公民館で、健康福祉委員会と体育委員会の共催による「ふるさと講演会」が開催された。

講師に千代診療所の山中龍也先生をお招きして「がんの予防と免疫」というテーマでお話しして頂いた。

五十七名の参加があり、講演会終了後のアンケートでは大多数が「良かった」という結果だった。

コメント欄には「具体的なデータで解りやすかった」「先生の人柄に触れ診療所へ行ってみようと思った」などの感想が記されていた。

大将荒神

榊山　輝彦

二月四日（土）に大将荒神が行われました。新型コロナウイルス感染拡大防止の対策としてマスク着用、数珠と手指のアルコール消毒を行い実施しました。疫病が流行した折これを鎮める為に始まった大将荒神ですから、今まさに新型感染症が収まりを見せない中、地域の皆さんと共に今年の無病息災と新型コロナ感染症の終息を願いました。

年々子どもが少なくなりこの行事の継続が危ぶまれますが、地域の方の協力を頂いてこの大切な行事を続けていけるように考えていきたいです。

告知板

○四月十五日（土）
よこね田んぼ畦塗りイベント

○四月二十二～二十三日（土日）
やまびこマーチ

○五月十三日（土）
よこね田んぼ田植えイベント

○五月二十一日（日）
ワンふらバレー大会

※予定は三月十四日時点の内容です。変更となる場合があります。

戸籍の窓

○**お誕生**

各務　妃菜那（ひなた）ちゃん
風舞・若佳菜　長女
（毛呂窪）

○**かなしみ**

藤本　清一　九十六歳
明　父（米川）
大平はるよ　八十七歳
博　母（米川）
小嶋　繁子　七十三歳
啓亮　妻（米川）
北澤　節子　八十三歳
建雄　妻（野池）
川手　文子　八十三歳
武文　母（毛呂窪）
遠山　良昭　七十四歳
良徳　父（毛呂窪）
植田　正子　七十七歳
喜代志　妻（米峰）
山口　康則　八十六歳
小林　保彦　義父（米川）
篠田　慶子　七十四歳
篠田　邦好　九十九歳
幸夫　妻・父（荻坪）
清水　親逸　九十七歳
きくゑ　夫（下村）
林　隆久　八十一歳
隆子　夫（大郡）